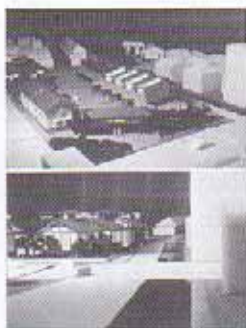


# 新潟職能短大通信

〜新発田の街をもっと豊かに〜



住居環境科では、二学年の後半から卒業研究に取り組み、これまで様々な町なみについての計画案を提案してきました。私の担当教科である計画・設計系では十六年間で五十件近い卒業研を学生と一緒にやってきました。いずれの卒業研究も印象に残りますが、ここでは、二作品を紹介します。



学生と一緒に初めて手がけた作品として、「清水谷修景計画(二期生 一九九四年)」があります。

新発田川を挟んで清水谷御殿と足軽長屋が位地し、新発田では最も江戸の情緒を留めている地域です。計画案は、諏訪神社方向から訪れる客を長屋門が迎えます。門を潜ると広場越しに足軽長屋が見え、少し進むと清水園入り口に繋が

るようになっていきます。建物は景観に適合した地元自然素材を用い、高さを抑え、川側は建物を雁行に配置しました。川沿いの道にリズムカルな軒先が情緒を高める役割をします。国道二九〇号側は車の騒音を配慮して蔵造りとし、酒を中心とした物産店が並びます。此処に来れば新発田のお菓子に酒、郷土料理や喫茶、そして物産に出会え、とても楽しい広場が生まれ、観光客を含む誰もが心地よい平成の「大人数溜」になるでしょう。

最近作では、「新発田カトリック教会道路実施に伴う修景計画(十四期生 二〇〇六年)」があります。



新発田カトリック教会は、アントニン・レーモンドの作品として有名であり、昭和を代表する名建築です。現在、裁判所前と生涯学習センター前を結ぶ都市計画道路の整備が

新潟職能短期大学校  
住居環境科 村尾欣一

進み、教会が表通りに登場します。学生の提案は、第一に道路整備を「自動車」から「人と建物」を優先した逆転構想です。教会側の歩道を広く取り、路面は間伐材を敷き詰めます。車道には、教会に近づくと、凹凸を自然石の路面で始まり、車は自動的にスピードが抑えられ、横断・歩行者優先を実現します。第二に、教会の信徒館を含めた教会所有地と隣接住居や建設業会館の土地を等価交換し、どの建物も光と風と住み良さを確保しながら、教会に相應しい町並みを醸し出します。

第三に、教会裏の幼稚園を結ぶ小路を設け、保護者が送迎用の駐車スペースと昼間の建設業会館の駐車スペースを兼ね、同時に教会を訪ねる人々の周遊の小路となり、市民の憩いの場になります。

学生達が卒業研究で提案した計画案は、あまりにも理想的で現実離れしたユートピアのように受け取られがちです。しかし、現在の町並みのもつ矛盾を長い目で改善しようすれば、抜本的な解決策が求められ、能天気な学生案も捨てたものでは有りません。例えば、不可能と言われた中心街の電線の地下埋設について、十数年前から提案してきました。現在では、電線は埋設され、美しい緑と空を取り戻しました。同様に、清水谷やレーモンド通りもきつとそう遠くない日に改善されるでしょう。その原動力は、三階櫓・辰巳櫓を復元し、寺町通りの修景を進めた市民の皆さんの意志と力が展望を示しています。